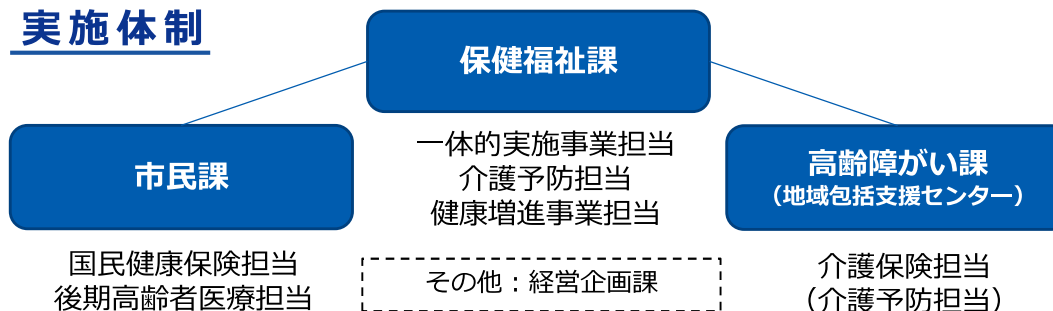


福岡県田川市—医療費適正化に向けた多職種連携及び地域資源を活用した取組—

市の概況（令和7年4月1時点）

人口	44,464人
高齢化率	34,50%
後期被保険者数	8,170人
日常生活圏域数	8 圏域

実施体制



取組の経緯

- 田川市は基幹産業であった石炭産業衰退後、過疎化、高齢化が進んでいる。市内の医療供給環境は充実しているが、どの世代においても全体的に健診受診率が低いことから、他地域に比べ健康意識や関心は低い傾向にある。また、平均余命及び健康寿命が他地域と比べ男女共に短い。
- 高齢化率、後期高齢化率、介護認定率が高く、一人当たり医療費は県内上位に位置している。人工透析者率は県平均より高く、慢性腎臓病（人工透析あり）に係る医療費が上位であることから、医療費適正化に向けて後期高齢者に対する保健事業と介護予防事業を強化する必要があった。

企画調整・関係機関との連携

- 庁内連携
主に福祉部内の保健福祉課、高齢障がい課及び市民生活部市民課で適宜連携を図っている。
- 医療関係団体等との連携
医師会、保健福祉事務所及び管内町村が参加する田川地区糖尿病性腎症重症化予防連携システムに係る会議において、取組内容の実績報告及び情報共有並びに事業全体に関する助言を受けている。また、フレイル予防教室の講師として薬剤師会や歯科衛生士会、POS連絡協議会と連携しているほか、福岡県立大学からは健康教育に関する助言や学生ボランティア派遣等の連携を図っている。地域包括ケアシステム推進協議会保健（予防）生活支援部会において本事業における実績報告や情報共有を行い、関係機関から事業に関する助言を受けている。

ハイリスクアプローチ

- 身体的フレイル予防
通いの場、健診等で収集した高齢者の質問票にて、①主観的疲労感、②体重減少、③身体能力(歩行速度)の減弱、④筋力の低下、⑤日常生活活動量の減少の5項目のうち、3項目以上該当した者を対象。介入頻度は1人当たり最低2回、介入は原則対面、初回介入から3～6か月後に評価介入。
- 糖尿病性腎症重症化予防
対象基準は、腎機能低下の所見
(1)HbA1c、(2)尿蛋白、(3)尿潜血、(4)eGFRのいずれかに該当する79歳までの後期高齢者。介入頻度は1人当たり最低2回、介入は原則対面、初回介入から3～6か月後に評価介入。

ポピュレーションアプローチ

- 健康教育・健康相談
フレイル予防教室として、市内51公民館に年度内に2回、フレイル予防に関する健康教育や個別相談等を実施。また、口腔、運動、ポリファーマシーの視点から関係機関の医療専門職に講話や実技指導を依頼し、毎回内容を変えた健康教育を実施。将来的に地域住民だけで持続可能なフレイル予防活動を目指し、地域で介護予防活動を行っている自主グループ「健康たーんとクラブ」に教室の体操を一部委託し、「健康たーんと体操」（田川市独自のフレイル（介護）予防体操）の実施及び周知。
- 後期高齢者医療保険制度説明会
市民課と協働し、プレ後期高齢者に対し後期高齢者の質問票によるフレイルチェックやフレイル予防に関する健康教育、健診受診勧奨を実施。
- まちかど健康チェック
市民課（国保担当）と協働し、市内商業施設や市内イベントで健康機器（血管年齢等）の測定、フレイルチェック及び健康相談等を実施。
- 高齢者eスポーツ
男性や関心が薄い層の参加者を増やすため、「筑豊eスポーツ協会」と連携し、家庭用ゲーム機をコミュニケーションツールとしたeスポーツ教室を実施。



福岡県田川市

事業結果と評価概要（令和6年度結果）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	身体的フレイル予防	65	64	・行動変容 ・質問票結果のフレイルリスクの改善割合	・行動変容あり（保健指導後に行動変容があった者の割合）90.6% ・改善あり 85.9%
	重症化予防 （糖尿病性腎症）	182	179	・検査結果数値の改善率 ・行動変容	・改善率（保健指導後に検査結果数値の改善があった者の割合）30.4% ・行動変容あり（保健指導後に行動変容があった者の割合）91.8%
	重症化予防 （その他生活習慣病）	16	15	・保健指導実施率 ・検査結果数値の改善率	・実施率 93.8% ・改善率（保健指導後に検査結果数値の改善があった者の割合）20.0%
	健康状態不明者対策	138	138	・健康状態不明者の割合 ・行動変容	・割合 4.1% ・行動変容あり（保健指導後に行動変容があった者の割合）55.5%
ポピュレーションアプローチ	健康教育・健康相談	-	1,132	・健康診査受診率 ・意識の変化 ・参加の意欲	・受診率 11.1%
	フレイル状態の把握	-	1,132		・意識の変化あり 73.5% ・今後も参加したい 96.7%

【ハイリスクアプローチの評価】 人工透析の新規発症患者数（被保険者千対）は県より高かったが、R4年度（1.4）→R6年度（0.7）まで減少でき、現在は県よりも低くなっている。要因として、重症化予防の対象者基準（eGFRやHbA1c）をより厳しく設定していることが考えられる。今後も取組との因果関係含め分析予定。

【ポピュレーションアプローチの評価】 フレイル予防教室は多職種連携や毎回講話内容を変えていることで、参加者の満足度が高い教室となっている。R7に男性参加者や健康への関心が薄い層への働きかけとして、eスポーツを活用した教室を開催したところ予想以上の応募があり需要の高さが分かった。今後は、eスポーツを継続的な教室として実施し、新たな参加者の獲得や高齢者の生きがいづくりにつながるよう、ねんりんピック等との連動も見据え展開する予定。

【計画の評価】 10年の事業計画を3期に分け事業を展開。実績をもとに各期で取組内容及び目標値を見直す等、PDCAサイクルを展開。第1期（R4～R6）評価としては、各取組のマニュアル作成及び運用並びに事業及び体制を整備でき、ストラクチャーとしては計画どおりと評価。各目標値はおおむね達成できたが、健康寿命に関しては男女共に達成できなかった。

課題・今後の展望

- 本事業の長期目標である健康寿命の延伸（特に男性）を目標達成できるよう、健康への関心が薄い層や男性への働きかけを強化していきたい。
- 住民の健康リテラシー向上に寄与できるよう、広域連合や福岡県立大学等の協力を得ながら健康課題の分析を強化し、住民や関係者と健康課題を共有できるよう周知内容や方法を検討していきたい。
- 地域の関係団体との協働に限らず、業種を超えた関係機関との連携を積極的に図り、様々な場面で健康への関心が薄い層の獲得に向けたポピュレーションアプローチを展開していきたい。
- 将来、住民だけで持続可能な健康づくり活動ができることを見据え、関係機関だけでなく地域の関係団体の強みを生かし、積極的に協働しながら事業を展開していきたい。

